

祇園祭（天王祭）について

「祇園祭」は別名「天王祭」とも呼ばれ、今から一千年以上も前の平安時代中期（八六九）、京都の都に疫病が流行したときに疫病退散のために八坂神社でおこなわれた祇園御霊会が起源とされています。

夏は疫病・害虫・風水害など不安の多い季節であり、それは悪霊や疫神の活動によると考えられました。夏祭りはこれらの悪霊を鎮め、災害を除去するために素戔鳴尊を神輿という乗物にお乗せして地域を神幸し、祓い清めていただくお祭りです。

素戔鳴尊（須佐之男之命）という神様は、荒（すさ）ぶという言葉があるように、荒々しく強い力の持ち主で、出雲の地で八岐大蛇（やまたのおろち）を退治し、人間の生命を救って農耕地を侵す害物を退治したことから、人命守護・農耕保護、害物の駆除をつかさどる神様とされています。

八坂神社の御祭神である牛頭天王は、元々、諸行無常と鳴ることで知られるインドの祇園精舎の鐘の守護神ですが、素戔鳴尊と同一視されてきたことから、夏祭りを「祇園祭」別名「天王祭」というようになりました。

今では京都の八坂神社をはじめ、素戔鳴尊をお祀りする全国の氷川社八雲社・天王社・祇園社と呼ばれる神社で、七月十四日を中心に疫病退散五穀豊穰・厄除招福を祈念して盛大に行われています。

宮司 福田 文彦



（宮司連絡先）

上尾市平方四八七番地

「八枝神社」内

電話…048（七二五）二〇六九